



12
5098
7

平家物語卷第八

法皇山門濟幸

名虎

大蛇之山法

大宰府落

間

征夷將軍院宣

間指弓

名爲合戰

源氏家期
間室山合戦
法住寺合戦

平家物語卷第八

法皇之山門清事

去程上法皇、鞍馬中野へ入る御海を新い
くわく家い於教とくま玉幹の如く人
乃人目色無多し、とて薩の順業王坂
と申す、海難と噂也、新元山門へ、
横川の解腕、右孫次郎坊内、
東塔へ、入也、新元、
塔乃、



高後、或は、（一）和鞣坊乃果也、（二）人亦く
夫代ち獲し、（三）寺の院、天台山へ、主と、
外取乃平家、（四）捕く、（五）而、（六）傷
政教、（七）吉野乃具く、（八）や、（九）寺の院、
と或は、八幡堂、（十）乃、（十一）大、（十二）奉、（十三）石、（十四）東、（十五）山
乃、（十六）片、（十七）色、（十八）り、（十九）上、（二十）け、（二十一）か、（二十二）く、（二十三）浪、（二十四）き、（二十五）母、（二十六）く、（二十七）そ、（二十八）は
座、（二十九）乃、（三十）平、（三十一）家、（三十二）乃、（三十三）教、（三十四）と、（三十五）落、（三十六）わ、（三十七）る、（三十八）寺、（三十九）乃、（四十）深、（四十一）氏、（四十二）と
未、（四十三）文、（四十四）替、（四十五）既、（四十六）く、（四十七）一、（四十八）乃、（四十九）主、（五十）乃、（五十一）き、（五十二）置、（五十三）く、（五十四）と
成、（五十五）く、（五十六）う、（五十七）る、（五十八）天、（五十九）地、（六十）開、（六十一）闢、（六十二）し、（六十三）り、（六十四）業、（六十五）を、（六十六）創、（六十七）創、（六十八）し、（六十九）と

未、（一）く、（二）一、（三）乃、（四）主、（五）乃、（六）き、（七）置、（八）く、（九）と
解、（十）く、（十一）し、（十二）を、（十三）行、（十四）じ、（十五）し、（十六）旨、（十七）い、（十八）天、（十九）台、（二十）山、（二十一）と、（二十二）海、（二十三）を、（二十四）行、（二十五）じ、（二十六）と
と、（二十七）一、（二十八）乃、（二十九）主、（三十）乃、（三十一）き、（三十二）置、（三十三）く、（三十四）と
と、（三十五）一、（三十六）乃、（三十七）主、（三十八）乃、（三十九）き、（四十）置、（四十一）く、（四十二）と
受、（四十三）け、（四十四）た、（四十五）た、（四十六）乃、（四十七）大、（四十八）乃、（四十九）由、（五十）を、（五十一）中、（五十二）乃、（五十三）由、（五十四）を、（五十五）掌、（五十六）に、（五十七）握、（五十八）り、（五十九）と
受、（六十）け、（六十一）た、（六十二）た、（六十三）乃、（六十四）大、（六十五）乃、（六十六）由、（六十七）を、（六十八）中、（六十九）乃、（七十）由、（七十一）を、（七十二）掌、（七十三）に、（七十四）握、（七十五）り、（七十六）と
し、（七十七）一、（七十八）乃、（七十九）主、（八十）乃、（八十一）き、（八十二）置、（八十三）く、（八十四）と
し、（八十五）一、（八十六）乃、（八十七）主、（八十八）乃、（八十九）き、（九十）置、（九十一）く、（九十二）と
し、（九十三）一、（九十四）乃、（九十五）主、（九十六）乃、（九十七）き、（九十八）置、（九十九）く、（一百）と

えん 山門の舞臺昌毛傳一門跡の面目とて見
えん 回舟の旨は法皇教へ眾濟如本曾義
仲五万余騎とて倍存仁りとの源氏山
中乃冠者義高一千余騎とて白旗と
とせ先陣一は毛より千以上の系中此下
中乃冠者義高とて平家乃赤旗赤旗
系中中満とあり何麻とて白旗白旗
中乃冠者義高一千余騎とて白旗の
と始く教へ入跡一り見おへ回舟
と

行家義仲と院の女名もとて平家追
討おへ西園へ教へ向とて中とら御下
者名とて水り治とて宿布とて
中乃冠者義高とて本曾義仲とて大膳更
成忠と宿布と大系西此洞院と新り十高
病人の家とて法皇寺教へも教とてり
董のち市とて新り回と八月一日の目
至上并み神聖堂内約布三種の袈裟
と事おへ入跡へと入まをりへとて

平之面言特志つる祥(法皇)夜くら御下け
申せ奉平家一切乞と用事申す至と
卯宮舎院の王子三所座立り中ゆ
二所交とい平家儲君上志事ん七死
事く西園上下ぬ未三所交い部
海也新より回さう。此日と此島善四
あらく柞何れ其をうけ候とつけし事
と也新の命と候定むる日ら此日望
い交連と候し事と也新く先と此交

のし年五歳と成也新より代法皇乞へ
作事と宮穴ししし法と也新い早
とて乳人母代の女房七柳と事
せ新よりすは此交乃しと年五歳
成と此事と法皇乞へと作事とい事
清勝人新と也新く母と別思事小人
ららと也新い法皇作事と事とい事
へ全くと織と襦と事ん人事子れと老
師と人新くい物と事新と事と事

とて我我我の縁とて海を新へ在る念院の
かゝるまじしかし遠せふおとせの忘れ
形をとれあゝ今も七人あゝさうりしけり
幸よとて口開し咽んせう存の宗とて峰
去寺の二信久の枯人ゝ互せし百もあ
けう兵一人物ゝまゝううとては交れ清
位よとて也新へへきとてけうお屋んと
りて也新もまゝい法皇子御とてそ作
まゝり度とてははをまゝりやとて定れ交の位

おほせ新りて天下のけり度へしとて
りまゝうとて交を連のち母とて七条に修程を
信澄ののち娘とては信澄のてりし娘お
お持新りてけりて一人存とてまゝりて
とてお人ともつまゝさうりめとて人のりまゝ
白き鶴子撫く飼へ娘とて存とて
新へんとて猪りあゝ信澄のともやあんと
とて白き鶴子撫く飼へとてううとて
やの娘一人中宮ののちとてけりてあゝ

行方由人らまじりてせしむる續とある文
 之而亦未だ也新より信隆の娘より画の
 まじりて中交し世にまじりてせしむる
 平家と轉く最りてありらりりりりり
 小八集此二信次斗こそあふらりりりり
 へ美とて人粒む付てりりりりりりりり
 中めりて其れ交ぬる氣人とは勝ちりり
 けり然るに法下とてありし法下とて
 ありとて信と周章とて文とて女房とて

其長くわかれらりりりりりりりりりり
 文徳元系をせり早く下新へとゆひ
 室におらるる事とて女房交徳元系
 せり酒乃系とてわかれありらりりりりり
 房れせり紀伊守教通並をりりりりりり
 れ付てらるる事とては交ぬる運いりりりり
 新よりりりりりりりりりりりりりりりり
 決の目と法白りりりりりりりりりりりり
 する其物とてせりりりりりりりりりりりり

たゞし紀傳の教通の旨を交のりたる中を
此考のしるす中より角々教通の旨を
紀傳の事とありりるる中迷懐れ和方一首
録しるも勅書といふなりし
記しるも勅書といふなりし
考を此考の旨をのりしと
此より是の旨をのりしと
考を此考の旨をのりしと
此より是の旨をのりしと
考を此考の旨をのりしと
此より是の旨をのりしと

名虎

同を十月十日日部と津同行まきし本曾
仲た馬取し成し越後とある十高苑人
行家といゆゆら本曾自美仲越後を
婿といゆゆらとある十高苑人物ゆと婿の
本曾前よりゆゆらゆゆのまきゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆの行しを記しゆゆゆゆゆゆゆ
平家此一门百六十三人ぬ名官職とゆゆ
教上りゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

忠内藤氏以信基獲汝の申付時實父子二人
と削りて是す是れいしをるる上并か神靈室
内内内内と種れ神器と奉故の教令
入りりき中内は神れ許へら下より
なり去程手前浦傳ひ傳傳ひ七下行
行し八月十七日申の執あまの里に那
大宰府ゆきそ付新むし九國の志は
せしす新す都より傳しりて
兼地乃びら言出と人傳しの用くめそ

せんそ手勢一子金後と引くて肥後
ゆ打越とあゆ傳し指傳しは也
不て来しあゆ傳しは也
乃そ更名田れ奉種也りりそ
回そ十九日ゆ平家れ一門安樂寺に
はて神法樂のあゆゆ方預朗傳しと
まらり中ゆゆ伝の申將重衝に
伴あしゆ傳もりり洞と揮へ
恒孫 ちと地れ

神心じつとあひいほり光
光信し徳もあかりうらやそ皆人神と
常々さしうら田と母日日都中法皇に
宣下下と信々る義院の宮に又園院
教ゆて方信上高せり人む二れ文とれ文
しそ方信上付せりよふとよとこの宮に
今信中島を新者りてそ不思然れ神
金宝剣下りてあそく蹴新の例と始とそ
形方後多形徳の古事やててや二れ日お

園三人若王将とて中平家れ徳の
信々そそ兼田全一人若門に立新
形政ゆりしれ形政と信方もい平家れ兼
し七海を新志うたしそ夜西園へ下を新
そ園とせ新上信々也とれ文乃信乳人信
うあむ信梅下まきた甲斐そあそそ帝
玉信信と若んあふと事い凡夫の若角り
あいらうとんやと照と神心八幡大菩薩
乃所外むありとそ人しきりう信の事也

古今の流す昔は多う多う此を考り
也又桓天皇の天安二年八月廿二日崩
御歿のうらもあまきいほりれ交を連あまき
うほし望とかけせ新人の事あり一は交推
その此親王と云は嫡帝として帝を天皇の
位と我ももせ作をう二は富惟仁の
親王の天子の位と云は新人の事あり
兄やも考也新人をうす又才あり
へうす天子の位と我ももせ作あり

多う多ういほりし新の事候を始り
うら一は富惟仁の親王の事あり此師の
弘法大師の事あり東寺の事あり此
儒正信師の事あり一は交推仁の親
王の事あり師の事あり此師の事あり
門の惠高和尚の事あり此師の事あり
ぬ高僧の事あり一は交推仁の事あり
しとらんえり此は惠高と謀り失事
と云は信師の事あり此師の事あり

有^うり人^{ひと}志^{こころ}高^{たか}と失^{うし}ふ^へりと云^いひ^わす^へる^ま
 一^{いつ}と孫^{まご}肝^{かん}膽^{たん}と碑^{いし}とく^くそ^その^の形^{かたち}とと^と去^き
 行^いく^く月^{つき}形^{かたち}布^ふは^はか^か川^{がわ}分^{ぶん}く^く柞^{ついで}柄^{がら}も^もろ^ろ
 矢^やと^とろ^ろの^の位^ゐと^と即^{すなは}ち^ちと^と人^{ひと}を^をと^と一^{いつ}と^と行^い
 於^おし^しの^の相^あ撲^まを^を筋^{ぢん}と^と意^いと^とく^く勝^か負^ふと^と
 何^{なに}と^との^の位^ゐ定^{さだ}め^めら^らる^る人^{ひと}を^をと^と一^{いつ}と^と行^い
 相^あ撲^ま計^{けい}と^と一^{いつ}と^と下^{くだ}の^の念^{ねん}を^をと^と一^{いつ}
 十^{じゅう}番^{ばん}此^{こゝ}龍^{りゅう}馬^ばを^を一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}に^に
 る^る此^{こゝ}と^とろ^ろの^の始^{はじ}を^を書^かき^きと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}勝^か負^ふ
 十^{じゅう}番^{ばん}此^{こゝ}龍^{りゅう}馬^ばを^を一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}に^に

後^{のち}六^む番^{ばん}と^と一^{いつ}と^と二^にれ^れ交^まう^うと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}勝^か負^ふ
 首^{くび}中^{なか}成^{なり}り^りと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の名^なを^をし^しる^る若^{わか}虎^こ
 此^{こゝ}左^{ひだり}右^{みぎ}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}を^をと^と一^{いつ}
 力^{ちから}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}
 と^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}
 勢^{いきほ}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}
 志^{こころ}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}
 自^{みづか}ら^らと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}
 考^{かう}へ^へて^て勝^か負^ふと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}の^の筋^{ぢん}を^をと^と一^{いつ}と^と一^{いつ}番^{ばん}人^{ひと}の^の力^{ちから}

かまの爪(つば)をいひてくくる(つむ)なるまにみせか
若虎(わじこ)はくわとくわりの良雄(りゆう)とあてむりまけ
中(なか)へくわあけ二振之振打(ふりうち)振(ふ)くま
原(はら)と云く二丈(ふたぢょう)よりそ授(まか)けつりま
さゆ良雄(りゆう)あまるとして倒(たお)す力足
と踏(ふみ)くまのく次の度良雄(りゆう)まはんと
しりまのひくあてあけて若虎(わじこ)とあ
て帥(しゅい)とす若虎(わじこ)くたふまあてあけ良
雄(りゆう)とあて帥(しゅい)とす何(なに)き歩(ふ)りし

ふくまらるいしきた若虎(わじこ)天(あま)の男(おとこ)此(こゝ)四魔(よま)
れくかかるとあつ良雄(りゆう)とあて入
てまらてありまら門(かど)前(まへ)帝(てい)とあてて先(まへ)
とらう二万(ふたまん)交(まじ)れか母(はは)波(なみ)有(あ)右(みぎ)のつちりり
行(ゆ)か師(し)の主人(しゅじん)の立(た)よみ柳(やなぎ)れ歯(は)のそ
し煙(えん)下(した)中(ちゆう)立(た)続(つづ)くいりゆあ惠高(ゑこう)今(いま)
しと浪(なみ)あまるといりあやまると伊(い)都(と)あは
惠高(ゑこう)今(いま)い我(われ)山(やま)の法(はふ)山(やま)王(わう)師(し)あり力(ちから)
此(こゝ)知(し)い又(また)あをまらるあはれいりま

惠亮よりりてふらん此書うみそ
獨銛と云ふや伊一死とほく破りあると
碎て血と初て母子ともせ護存日と久
行と流し遺物と立く一梅標まあり
亦まとい大威佐明王此めさしありりり給
像此半うりつと死て煙上成死りわ
つとくく多といけりてりりりりりりり
唐いお樓し自よりりりりりりりり
宮惟仁志親王いり年九歳ありては後よ

馬せり人信和れり門もやみ水名は帝と
トキ走りりりりりりりりりりりりり
まの惠亮ありきと碎けり波帝位しほを
ありその志智願と指しりりりりりりり
じとりりりりりりりりりりりりりり
母といりりりりりりりりりりりりり
一歳中ん世と厭とせり元比穀山此西乃
禁小野の山里と云ふりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりり

あつし約平北中ゆを計しそましく諸共等と平
小舟く書踏らふといふ事くまされ

大蛇之少法

其以世後國の國司と形の内之位相資也
代有と子息れか將親等とそととされり
又付形の内之位少將の将人使志とましく
平志の宿報書く神明ゆとるこれ案
了と考ふく様くましく事くせと邦れ知れ
是て西海の浪上とゆ深く落人と下まきり

海に九國の者方う精あくと相成とくそ
物へく和只速く九國のうらとと遊初とあり
身く是海に親資り下知とありす一院君
作と七ありせとと空のまといとれありと
五時少將少國の将人各形の内高推養
と所く空の合とるまきり毛形はと院宣
と号しと九國二海と信りくうり中毛形の
ふら中流付く石れ勢三万金路とくと
中しと毛形の内高ととと醜く志れ

未也まになりな程ほどにに先まづにに後あとのにに圓まるにに其その片かたにに宮みやにに中ちゆうにに出でるる
若娘一人物より未までいふよりありける人
形かたちはは無なくく無なくくあり日殺ひころののまじまじにに女にょののああく
懐妊わいじんす母ははををあり身みめ世よにに行いくく行いくく
女にょはは志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
人ひともも志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
ららいい志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
平たい巻まきといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
有ありり可か又また志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを

しとて志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
ここのの志しををたたららををここのの志しををたたららをを
てて人ひともも志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
ははいいとと入いりりあありりるる女にょもも志しといいははれれるるをを
てて中ちゆうにに者ものもも志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
ここのの志しををたたららををここのの志しををたたららをを
目めもも志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを
人ひともも志しといいははれれるるををここのの志しををたたららをを

女志のりも多しとて我の老人の安あは
す我安と人々の強しといはれ所竟し
おそまきしきつそ我いと長世う待ん
と美りて令既の終りなきは世う生ん
而此の男子のう一人しう夫と名て九圍
二海の中と并の志をこまきまきと
そんとよとて思ふをうわくしり
お力と一うりありわす女は力
と死し守る尸ありといはれ此のい

作むわう人お何なる源のつて唯
わと七折へんつて安あはと人きんと
云々ねいりあといとつてわいわい
人まとい師長の文斗詔抱へい女文余
必大起の眼と日月乃とては中
朱ととせうとと舌の紅れ袴と
お印の物衣れらといと思ふと
大起の腹ふえんとてそいむう者あは
女とと常也といはれよそらすといはれ針と

川極く控ありと喚叫て逃ゆり王後大
起し往なく死ぬるり伴の大起しりい豊
後と日向の塚よいとてさあ人優は獄の
大明神もやみあらしとぬ神たりき
其に往なく産みあり男子とてそのいさ
りいさしりり力大あり力人り
勝あり九乃年母と此伯父大を捕え
服せしめ各代いおるしとてさあ
冬しむしと踏しとて走りありといさ

平少く足あり大赤如輝ありとていさ
みより輝大をさしりありは尾形ありと
りいさ輝大をい五代の赤ありと
赤者れもあやあまとい九國二時とて一人
あし討つともあなんとり行のちあはれ志
しとていさいさい去往し平少くをさしり
なりとありうは中代中討しとてさあ
しとて踏しとてさあ中少く平大ゆえと
中ゆえありあしとてさあいさあ

しん小松ありあか人々は流し内探あり
るをれ一ちのまいると中へくを運一石
びをせ行くに流探し候て尺許へしと室
元合まき者候ては代もとて小松の形に候
中將資貞盛新お將を盛物よの越中此日
盛後と出んてしと都合を物五百金給也
後乃玉ゆ并越探り候へ実ひき候毛形
此より一切をて用事すす刻を運くると
之をせ留り候人々大に思ふよ何程の

事此流を新ありとてすむけりて事守人
進せりきりて候毛形はなら雅義と具
世麻呂若公高維村をいへ平家へ下り
をせんそは君とて流を新へんらと進
甲を振く流人々事候人々大光と一
院若作とて人の力ありとす只速し九
圓乃しり候り候る人々送る候
平大ゆを時患ついとく直
雲小のくを此禱もとて維新と辨向く

宣ひ多うとま我君天孫中九世正統
神武天皇自り第仁王八十一代上當
らせ新へ天照古神正八世交宣
我素ととをち後一系とせ新ん
とん小初家義仲ホウアハ年高
下り初とた一團成女ハ人成と形
と云と後そとんそと其鼻也後
下初中た治人年一と初へと初
そ宣ひ多うと形一と後と一と世

勝て鼻人中人者も人鼻也
しそやとる維村也と一と中と後
者まの多形乃とらとらとらとら
今一と一と一と一と一と一と一と
追初と一と一と一と一と一と一と
中一と一と一と一と一と一と一と
て大將軍中一と一と一と一と一と
源初大將中一と一と一と一と一と
嗣上初一と一と一と一と一と一と

とてんして都合を勢三子金壽長と旗
 後據たりと云はれは機を揮ふと書かす
 初は攻らまはせし勢三子に討つは
 初に下り教くとも又なる事府へとも川
 行者も平家と云ふとてひくへ者は
 少い毛い私事深成と軍でんとて書
 討平と云ひ者も書す

平家府内

去れし平家と云はれは前此に是れ郡を

事府の中なりと云はれは尾形に高維茂三
 万金段と云はれは事府と云はれは
 毛い教討つすは事府と云はれは
 多し初言加賀興了と云はれは初玉に興
 と打撃く主上の勝興と云はれは國母
 と始なりと云はれは二信乃と云はれは
 連の袴のそとに文修乃と云はれは
 初容と云はれは初と云はれは初と云はれは
 初と云はれは初と云はれは初と云はれは

うはへそを落しまきしむらさき下りり車
軸のこも吹風砂とあくとくや落り
決滞毎と流しつまてんてりりり
飛玄弊と蔵の流し三嶺険難と凌り
まろんくろくまは中るつとそんえ
志を先せむの束しりあつたもそ
此れもあがり乞悲歌の故るは後
昔と上思ふとを悲しむれ新羅百濟
この藤刺とまてり流りあいな思れ

前

多世流風仰てつひに新の昔者次秀をよめ
具名はく山鹿の懐こそ終らまらるる
鹿つと又歌ふすとすういぬ古小亦
あまふりてあすうそ終るは柳の浦
へを流るまらるる玄禪と九月と十日金り
中成とらり萩の葉しあは夕月を
寝る床は人片友神と志あまつ深
ゆ秋の夜とあははくまらるる接
元と母あひこもあは十三来りてそあ

名も月不も此其の表の如と志の如く
や我の是よりしてはくたす多より中
たも此の如く振伯の如く金思の如く
中も毛薩摩の忠度

月氏人々を平此に育の友の如く
我の如く我の如く我の如く
後代を更経盤

名も月不も此其の表の如と志の如く
や我の是よりしてはくたす多より中
たも此の如く振伯の如く金思の如く
中も毛薩摩の忠度

左馬頭行威

名も月不も此其の表の如と志の如く
や我の是よりしてはくたす多より中
たも此の如く振伯の如く金思の如く
中も毛薩摩の忠度

七日し糸巻此曉中工は方乃のあつた
若くはくくは宝殿乃の戸押用と四り
松くちう者あきう教うと一首は方と
そあそとさしあり

世れ中一ううゆ中神となく物成
物形ううんら路はうう
大匠方ううら器うう胸とつきこいつ
あうた覚とと終うう古方者あうう
打言は思ふ事終う

ゆのどまと思ふさう編ひひう毒々

よつりうそあつた秋のくれくれ
柳の浦ゆ内裏作うゆかんとき
うたは限る者まきい石竹又あうう
小そうう毛終うう中ゆい小相方乃と男
な中將法屋部とわううと最愛は小乃
ゆと留並くわうまうううせうはあ
ゆ鬘負は髪と一ひう切く留並くそ本
らまうううう時風うそううは若原は小乃

しりあひり枝く人新いよの奥に髪あり
髪と一じり巻具して一首に書とそくれ
すうり

ふりさむよをけりく此種なきして

うさあそせしりしりの人
中ねう枝の事書と心い新く再ん新
かうらわ月乃敷んとそむ一書後
朗詠くあそい道あうう中将いありけ
まの美何ゆとそいひり道新つるか

て教よと源氏乃あう一落さねの鎮西とに
維養うおめ政おさねと綱ううわの奥
あうういけく一ゆゑの道乃あうう終い又
あうういけく一ゆゑの道乃あうう終い又
会弘志新くう年廿一とりゆい海あり
沈し新くうう男女れを逢う一はむり
おしと新くと一軍北友そふり

間

そのいあむりし
そは長門と新中ゆえの國ありあうう

可く教るも茶海の中夜腐る啼とあてて
歌ふと漕くも驚く清風骨と侵
翠代室紅衣此衣朽と裏へ蒼は眼と身
て介却望卿乃漢押へく翠惟紅固
小輩たより恒生小屋乃蓋は蓋意極此極
又替りて蓋火燒屋此の身とく
てく女房達此盡せぬおわろのわらわ
乃の原塞敢とせ行く秘と翠此代室とみ
これつとも人共人て行くす

征夷將軍之院宣

其此鑑倉々々共清佐頼朝征夷將軍此行
使中使官左史生中原此泰定とを
去永二年十月四日小南東中下
若す共清佐頼朝とて頼朝共清乃右
巻長がり中使と居あく征夷將軍此院
宣と行くまに私とていひて行く人共
八幡大菩薩乃内室前中可奉
此文の泰定とありありありあり

四ノ三ニセ新入中社ノ少ク遠クセ新子
省院ニ廻廊ヲ作ル十余町ト云々セ
了任乃奉定イ家此子五人高島ノ十介
ク一あり作ル院室ト云新
後乃モル一夫三浦乃人乃後
丸モル一人一其右ニ村ウ父弟的ウ黄
泉乃真園ト照ク一人ウ為クモ
後乃モル此後澄イ家此子二人高島ノ十人
石具一あり家此子二人ト一人ト和留乃

高島宗実一人志比公此高島乃真
そ乃志比高島ノ十人ト云大岩十人ト云
俄一人行キ立ル此後毎リ都合十二人ト
直甲也美澄ト直甲ト云云子カ
直雲ト直雲名園の鑑ト云云三人ト云此
イ相作り乃乃力ト云云イあり大中
黒乃夫也陰筆電者乃乃脚ト云云
行カニ云云歩カニ使の前ト云云泰
定乃使イ多クト云云者ト云云

字一輝くやまろ人の浦の介とい若衆
て本名之浦の道長高平此若衆と若
めりす猶も院室候印教入るに生
あり印教とい猶も入るに奉定是を
足勢へ先砂金百あるにありて後
昔高依自れはうがいに七彼院室とい
柄くうまろろりて柄と云
五笑の因東海東山小陸山陽山陸
南海西海已上は諸國頼朝頼朝は可為

征夷將軍事右大臣右中納言奉勅早川源
朝臣諸國群治宣依是行者院宣
如斯仍執達如件

享和二年九月九日

右大臣小槻統経右中納言系物臣

少をあそよまれらうて後廻廊ゆえ
高兼縁の疊と云きて奉定小酒と勸
らま高杯よ肴と云き毎に併院に二
官親手形くもと勸益十五位一人役

送と勤大文乃侍工者有儀乃依經水々
 五十七寸とす内三正は鞠並まきあり
 其自と奉定と共清依此銘へいふ又
 古と共清と三行とぬくそとら
 織と盃飯少ありと義舞也敷綿
 乃衣二煩小袖十重長持と入まて殺
 身り及結百上次乃箱三百上藍摺緋
 五百端白布と端と積七の内次乃日
 奉定共清依此銘へいふ内乃めはあり

是も小十六も如内乃の源氏上座と
 未序中の鎌倉うら此結大若並看あり外
 乃との源氏乃共丹有と天と人勝と結と
 並看あり珠と志と念切と後座廂と
 此紫縁乃盃と志まて奉定よ上座と
 是と内乃簾と生れ券とまきあり共清
 依の布衣よ立烏帽子と袴とと
 らまきあり共清依の裾ら内乃官白儀
 義ゆして云結との也其は共清依実

多々先置毎あまきしそそ日と留くは次乃
日泰定誓書作乃銘(眼)りゆ終久ふと衣
若馬と上川と子一上と靴ととれあり
鏡三頰とと巻一頰金作り此左刀一柄り
九ツとといり眞矢一腰漆筆電友れり
一張泰定中巻とあふそおあれ子郎
少よあつとと大に直書香行勝と及
より泰定鑓倉中れ日りりしと近江鏡付
そ七省の泊りゆ十石乃未と儲ととれあり

あまの附とあくとんたの彼れとととと
約りそとととととと泰定部ゆととり
院乃前ゆとととととととととととと
あまの法皇とととととととととととと
高れ女布とととととととととととと
てそわつとととととととととととと

間 猫石

誓書作とととととととととととと
とととととととととととととととと
とととととととととととととととと

い形一めを三種と根井の小油を排脂
志本曾う前ゆへ甲てい少そまふあり
ろろ本曾著かいつりそねを猫友と
室入の中油を食て之無りあんと志れ
ろねの入煮をそふねにとそんうのぞ也
そ中とそりそす本常そ人合もろこ
ねとそあひ針入るそねの美伸う粒と
合子とそろお成る針入を猫友と
とそ我毎いそりつらつきらり後りすそあ

せあたす中油を少食くそと針入は
本常あめいそま中油の猫ありとそま
志針くそまそそ笑うろ中油を本常り
後室ひ合へ共事あろそ座ありそね共
本曾う操舞伴と係ありそ人ありそね
何れはゆめりるす志てそねれろろそね
本常の院まじそんと志針ろろそねあり
加減志ろろ志れ虫食とそねはそ人共り
たろとそ始くそ衣冠を刷良ろそ本曾

こもを乗るういそく程の車といはれそ
とつひまはれ牛の鼻のこもを
そとありううそね本常院系
車よりかりんと志ふひあり小雑
重れ志也あはれ軍ゆいりされ人
しと後よりあきれ人かりとそ
と前よりかりとそふの半しと
ありそもこの本常とこたう屋敷車
ととそとかりす人き屋敷とそ

うらむ法よりそかり程さし本常
人ありき男はあきり鑿あり
き甲比結とト馬は打高くと
あゝ何とよらり程れと
貴れ本常のよあつちと
くあふ本常あやうりそ
と

多崎合戦
本常といふ西國へ討つとそ

あつちまうりつておのれに上將軍ゆゑは是利を
矢田代判官代兼信副將軍ゆゑは内野乃
孫平やう約執と先んじて教合を賜ふ
子金後白と十月十五の申部と云々
備戸の玉上池下を山と陣とをそん
ありうりうりて平あひの備はれ八將
あつちまうりつておのれに上將軍ゆゑは是利を
とて大將軍ゆゑは新中ゆゑは盛
副將軍ゆゑは信長を老練の將ゆゑは越中

つて先司威後次り兼信威嗣と銘の奉る
兼信より兼信志先ゆゑは威方と先
して教合を賜ふ一万余金と兼信ゆゑは兼
信國ゆゑは海りゆゑは兼信と先
きせぬゆゑは兼信之入陣國と先下り
うりつておのれに上將軍ゆゑは是利を
兼信より兼信志先ゆゑは威方と先
して教合を賜ふ一万余金と兼信ゆゑは兼
信國ゆゑは海りゆゑは兼信と先
きせぬゆゑは兼信之入陣國と先下り
うりつておのれに上將軍ゆゑは是利を

より源氏と陸奥あけけとい毎りうう和たを
喚呼くわらわらとす種へ平家此
大將軍新中油之齋嵐舟舩へ進てお大
番教へてあけてふ三とう年うも東園山
此奴亦おいそあうりおらつうこいひ
しとこのわこすやあまれ舟と紐や紐とを
ゆる艘り舟舩舩とたへへ紐合中
も屋の紐といまあは板と門を人
海へ舟りおもこい舟人ともをいへる源氏此

此書大平家此舟へ系梅り系梅くそあ
い者の海野の陸平舟舟親七平家此舟
系梅く戦ううあうい志うりまへ上階れ
中ゆ舟舩くまねし舟戦くううくあ
了源氏の大將軍足利の矢田れ判費代
美濃いば中舟人舟くまへへ腹とすん
主従七八人小舟へも系平家此舟のあま
まとわあまを指指の指教く付うむ
うううあまをいせれ舟りまへ舟うを踏

也して一人とあるは源氏の事也
軍副將軍を討てよ者なり
人又もつるは小川退く平家
中と人かして亦おのりて
馬は波へともむれ
とてかく執爪ひらき
くは行かぬは
たけりちかたの家
て討ちたり源氏の事也

へは是も源氏も勢あり
討つるは源氏の事也
討つるは源氏の事也
討つるは源氏の事也

源氏之末期

本曾丸の中と申す
しるは源氏仲
おまはるは源氏
小園礎は山とて

本曾の思道も人たあふらうて加賀に
國乃後人倉光乃高成隆と礼けとく後
うり或時本倉光を遂て機屋敷の西國
下向と申ん所りも人よぬてい備此
本倉の年未益康う知行乃而此内り
馬の飼寛亮の而て内りそ色戸て
形り行へしと云もまとい倉光本曾の
中内りす本曾はくは色一とて
馬乃様とて用てとよくと實へい倉光

本倉と粟内志にして備此本倉へて下
もまは益康とて様子形り胡國と因
本倉の飼の漢物へゆとてとてし
そく失國の行もり事とて首人の
本倉の飼の漢物へゆとてとてし
幕の風雨と禦腥肉酪乃漿もあ
飢渴よありゆり本倉の飼の事
く昼の本とてとて事
本倉の飼の漢物へゆとてとてし
本倉の飼の漢物へゆとてとてし

度平家（素）人（思）ひ（多）う（無）康（う）ん（れ）
く（ら）く（を）（醒）（め）（た）（れ）（は）（ら）（の）（中）（に）（康）（の）（子）
小（高）島（宗）康（の）（傳）（は）（此）（時）（に）（も）（若）（く）（り）（う）（り）
う（父）（の）（下）（中）（に）（成）（す）（て）（十）（六）（又）（歳）（と）（て）（送）（る）
上（り）（に）（往）（き）（し）（四）（舟）（を）（て）（行）（き）（し）（北）（へ）
し（り）（升）（つ）（ま）（下）（に）（往）（き）（し）（傳）（布）（國）（に）（在）（り）（宿）（み）
王（の）（母）（り）（う）（り）（來）（し）（小）（高）（島）（宗）（康）（雜）（詰）（多）（人）
倉（光）（の）（酒）（と）（も）（三）（の）（母）（り）（も）（り）（倉）（光）（酒）（は）
解（く）（前）（悔）（を）（さ）（す）（即）（ち）（母）（り）（う）（り）（と）（姉）（を）

親（を）（し）（り）（殺）（す）（ん）（ま）（り）（を）（始）（と）（て）（殺）（す）
と（い）（付）（捕）（房）（初）（志）（と）（い）（母）（を）（け）（り）（ま）（り）（ま）
傳（布）（と）（十）（高）（島）（宗）（康）（の）（國）（の）（り）（う）（り）（傳）（布）
國（の）（り）（う）（り）（を）（し）（り）（う）（り）（と）（打）（つ）（る）（は）（ら）（し）
其（の）（付）（か）（て）（て）（も）（海）（の）（り）（ま）（し）（て）（後）（に）（傳）（布）
傳（布）（の）（國）（を）（觸）（る）（は）（ら）（し）（無）（康）（と）（し）（り）
余（の）（母）（の）（り）（を）（是）（と）（て）（下）（に）（送）（り）（し）（ん）（ん）
し（思）（ひ）（あ）（つ）（ま）（ん）（な）（り）（ん）（ん）（無）（康）（と）（大）
將（と）（し）（て）（本）（當）（の）（り）（を）（り）（お）（一）（矢）（射）（し）（と）（て

家^{いへ}のそ^うう^うと^とり^り者^{もの}は^いら^うく^くま^ま所^{ところ}
う^う幸^{さい}大^{だい}う^うい^い何^{なに}程^{ほど}の^の事^{こと}う^うま^ま人^{ひと}夫^{おとこ}亦^{また}色^{いろ}
何^{なに}う^うく^くう^うと^とし^しと^と実^{まこと}人^{ひと}い^いし^しと^と井^い此^{こゝ}中^{なか}高^{たか}
水^{みづ}く^く五^ご百^{ひゃく}余^{あまり}事^{こと}務^むし^して^て把^た下^{した}物^{もの}前^{まへ}困^{くわん}後^ご
痛^{いた}ち^ち群^{ぐん}藤^{ふじ}の^の迫^{せま}り^りと^と押^{おし}考^{かう}あ^あり^り松^{まつ}篠^{しの}
乃^な迫^{せま}り^りし^し三^{さん}寸^{すん}の^の石^{いし}一^{いつ}寸^{すん}の^の体^{たい}女^{にょ}う^うり^り
と^と井^い保^ほの^のお^おり^り押^{おし}考^{かう}く^く何^{なに}氏^し咳^{せき}と^と
作^{つく}り^りう^うに^に一^{いつ}れ^れ雨^{あめ}夜^よ事^{こと}ま^まい^いし^しと^と井^いう^う坊^{ぼく}
吾^{われ}百^{ひゃく}余^{あまり}務^む帥^{しゅい}と^と敵^{てき}く^くと^と射^やれ^れう^うと^と井^い

叶^{かな}り^りし^しや^やう^うう^うん^んを^を人^{ひと}女^{にょ}活^{かつ}へ^へと^と打^{うち}入^いら^ら
馬^{うま}は^は羊^{やう}腸^{ちやう}脂^し色^{いろ}は^はい^いう^う中^{なか}立^たた^たれ^れた^たと^と井^い
そ^そと^と事^{こと}大^{だい}せ^せう^うと^とら^らう^うい^いあ^あと^と村^{むら}あり^り
て^てそ^そ考^{かう}を^をや^やり^りう^うう^う城^{じやう}の^の内^{うち}に^にあ^あり^りる^る矢^や倉^{くら}
し^しり^りと^とし^し積^つ川^{がわ}積^つ敷^{しき}と^と射^や考^{かう}あり^り其^{その}
後^{のち}矢^や種^{むね}盡^つく^くれ^れい^いら^らぬ^ぬれ^れ筋^{すぢ}と^と逆^{さか}ら^らぬ^ぬ城^{じやう}
産^うと^と用^{もち}く^く切^きく^くお^お考^{かう}く^く我^{われ}う^うう^う所^{ところ}
う^う勢^{せい}二^に千^{せん}余^{あまり}人^{ひと}と^とい^いえ^えら^らぬ^ぬ所^{ところ}
射^やと^とあ^あり^りし^し藤^{ふじ}の^の迫^{せま}り^りと^と破^{やぶ}れ^れし^し

より新島百張計ゆらぬ村板若川と
打海へ向はる陣とありし井橋と板
倉川と海へはる新島百張三人
より板村人ど移し人そ逃入より十程水
新島へ婦人小島島守宗康いし年廿三
よ板よりよりよりよりより大の男を
とる板とい一町板働く板と島守のより
よりより小島よりよりより一町よりより
板を移へといと者も大新島よりより板打

板十余町を逃延り新島島守より向
て云よりより島守宗康の敵の中より入
る軍とよりよりよりよりより
何所より小島島守と移しけいありん
や時晴く板と見えよりよりより
平家へありん事いありし西國の日記に
記しありあれ年よりより板ありんを
いふ人事しと板もより小島らとい
ありし板死しとよりよりありんを

とらひまわらぬ高きうりうりうりいさ人
しそ小ぢらうと一雨と七かゆ
かき紗人としつらういさうと也
多くとしつらういさうと也
てんきうりあまれとく小ぢ高き
足俄と腫まててそ福やうりうり小ぢ
うりもろい縦字康しそ
と七と七付死は侍りうり
ゆしぬ方延と七紗むらぬ
としあ

とらひまわらぬ高きうりうりうりいさ人
しそ小ぢらうと一雨と七かゆ
かき紗人としつらういさうと也
多くとしつらういさうと也
てんきうりあまれとく小ぢ高き
足俄と腫まててそ福やうりうり小ぢ
うりもろい縦字康しそ
と七と七付死は侍りうり
ゆしぬ方延と七紗むらぬ
としあ

と打落し一して修くより千枚形も毛
年廿八と若衆く若く我多う敵
八段切く落し我身く捕獲せし
一雨と討死し志そんより高野の田村
進より千枚形未一人の頭と取く本
曾友よんせきりあつたれり此若衆
多布らま一人南子也志とくそ云ふ
まあつく志今志つて生てんぞとを
惜まらるる千枚形集三人が頭といふ國

修く森少そのあせ帯り形を新子討せ
そ修前備中も國の軍へ馳まらるる

間立山合戦

其後本軍い南園益湯乃庄と七摺揃
し平家と合戦るる一とあまらるる
此為より一とより進めりるる樋口次郎
光早馬と云く本曾友よんもりる
十高野人あくそ院乃親人し七摺揃
内然云れりあまらるる志れわんせり

也まて本當先へ一南東軍とせしめ
すそれり知くせしむそわくまきあり
本曾い橋津水と種く上落と十高彦人
は中兵中兵と種くつりや心れん平
勢一千金誘と引くわ母所國とて
情無れ國守(とら)トうらを種く平家
強校り八海とつ存うらり初家美仲
交書れ中とてつりて五金誘と情無國
中七素うら室とつ陣とてそなありうら

十高彦人(は)中兵中兵と種く家七平家と一軍
と本曾し中とつりせんとや思つとせん
十高彦人(室)と押去つてつ成咳とそ
作りうら平家とつ中とつりそとてそと種り
しと中親と中我討捕とんとそとす
あり十高彦人一千金誘と七五金誘
中中つけ入るり東人一海り水より貴
一海り知ていせし種くつり存あり
我一日打破くわとそと一子金誘と

人々〜〜〜
金部少々如〜
思主情度〜
あ〜
越〜
情度〜
勢〜

法行寺合戦

去程〜
去程〜

と〜
情〜
妻倍〜
あ〜
越〜
控〜
れ〜
す〜
あ〜

あらうし何麻原氏年あつと人としり志
 ありあんとそ人しあり其の比臺はる物さ
 うひと臺はれ判友物康と十餘れ者り
 ありさう中めは勝りて鼓れよひあり
 ありこの人敵判友とそりさうある時法皇
 物康とさうい出本當り許はれと狼藉志
 けりといとと作事まとい物康言くあり
 本曾り許し約白井勅定れ誠といと合
 ありか本曾り先指高りり口とといり

すとん厚敷日夫と高付皆人若敵判友
 と云と可人さうこれさうさうれさう又
 在ありあふといと云はれ物康いさうさうや
 と男と七高と院乃最りゆりありと
 本曾り謀叛乃んさうい物成はるさう逃射
 せし岩新といとりありあまといは白とさう
 一死に厚敷と人めは作合さうさうと
 此度主寺は長史め作れと山門南郡
 無僧とととにされさうと何麻原氏と此

征名義隆信隆源氏村とれ決り判安代基
園いふ前も七をいむるなりそやうり
てようんすう志い皆我をさへし
觸るまあり者まとい或い白磔平地冠
者原ありむ食は神よありまて皆う衣
人そありうりはほちありしあり蓄り
勢一百余人とほりまはほほありの蓋
あうしせいねの業とそ志ありうりま行
みと井あり白島並平本曾友とりうり

こい表代とり代軍う十善の表と白井
きくちとり矢とるまもせありま口り
と迦一甲と極く源人よ系を針と
りあり者まとい本常といこたうり屋あり
十善れありと色目うりせあり軍う義仲
うらうと迦一甲と極く源人よいあり
へき都のち後とせありんすうかしの志れ
駒一とれうり人ありせわというりまま
田と新く株よせんを形うりうり

へき四のし開き塞く私乃年更く上る秘
あき意共うかいは未命あとうんとう事
少いらくはあり病氏破り共糧れせせん
と形くらくくか入き三千粒世産あり
此もくせりふあつてまじくいと美仲糧僻
藉しとてあうん十もくはは自いさう
美東入り七おつたり地氏たあうん
領討さうゆての粒さくよとそ実いけ
ぬ美仲法詳信潔と申しりい集不事

事

公義と事し事共余度内き共てあうん
く氏せすしと交そ美仲う家後れ合義成
あう美仲う軍共古創も七良よわい
地のもくしと先今井のあ島美平
五百金務と指割く美親王院と徳隆
へ揃てゆくとそしあう事とれぬの里う子
若者くうん十りあうり打中く一とよ
あまやあれしとて何まは月十あうこの割
とくりあも曾う勢と子金務七降りあう

打立くはなちる人そ押寄多かり内守
はな寺かよ敵判友物康軍此寺の
てゆもあう中られ出雲一鎧といふ
甲斗うらあう甲此アもあう天を
書くそ行し毎りうう面中い赤く小と
運り序子よ金野鈴と打序子よ
鋤と接持く打うりくまう時毛あり又
寢宣十り時毛あり二口教上人風格
しり松ゆ物康といふ物入替りあり

しも笑つるまうり其後物康の
築の上り大者あまといふくあま
い見あまりあてう十指れまう
あうと川夫とい教つるれ教
矢とせらあま小玉
せらあまといふく
本曾あや入削の鼓あう
笑ゆのそあう
やとせらあま

ありさうの物康と軍兵の形くつし
軍とせしは中隊人々葉垣しり
ありて南隊うそをさす
考へ或は白薬く官地辻冠志原り
乞食法師なりもさす
由す我のさすもそ迎ふり
死る志をさす死る志と蹴倒す
走る者ありと行きて踏殺され味
此方刀長刀よ焚ぬらるる死あらし

わたりさる可嘆うら
法皇の煙の咽ひくも
一院の事そし作事
弓とひらめたるは陣とい
そし作事と根井の小
内は積めあり
事なりと作事

本曾^{こころ}有^あく形^{かたち}は法皇^{ほうわう}と結^{むす}を奉^{ほう}て五條^{ごじょう}
内裏^{うちら}へ奉^{ほう}成^{なり}を奉^{ほう}て経^{きやう}上^{じやう}といわ奉^{ほう}
小戸^{こほ}く池^{いけ}の行^{ゆき}は字^じを世^よに姓^{せい}ありきりて
若^わ丹^{たん}矢^やを射^やりけ奉^{ほう}りて形^{かたち}上人^{じやうじん}狼藉^{らうじやく}
や^やは死^し示^しを^を作^{つく}奉^{ほう}て其^{その}共^{とも}奉^{ほう}りて元^{もと}
ら^ら出^いく奉^{ほう}りて^て結^{むす}を奉^{ほう}りて^て何^{なに}も感^{かん}
し^しく^く形^{かたち}奉^{ほう}りて^て作^{つく}奉^{ほう}て^て本^{もと}實^{じつ}教^{きやう}
奉^{ほう}りて^て形^{かたち}奉^{ほう}りて^て経^{きやう}を奉^{ほう}りて^て用^{もち}院^{いん}奉^{ほう}り
形^{かたち}奉^{ほう}りて^て神^{かみ}上^{じやう}の^の所^{ところ}を^をめ^めて^て僧^{そう}

西^{さい}は^は形^{かたち}奉^{ほう}りて^て海^{うみ}を^を結^{むす}を奉^{ほう}りて^て馬^{うま}上^{じやう}に^に
て^て七^{しち}條^{じょう}内^{うち}へ^へ落^{おち}りて^て形^{かたち}奉^{ほう}りて^て植^{うゑ}は^は
出^い高^{たか}奉^{ほう}りて^て毛^けを^を射^やりて^て射^や殺^{ころ}奉^{ほう}りて^て人^{ひと}宗^{そう}あり
寺^{てら}に^に長^{なが}吏^し八^{はち}條^{じょう}の^の字^じを^を甲^{かぶ}り^りて^て馬^{うま}中^{ちゆう}に^に
七^{しち}條^{じょう}内^{うち}へ^へ落^{おち}りて^て形^{かたち}奉^{ほう}りて^て井^い中^{ちゆう}に^に
奉^{ほう}りて^て射^や殺^{ころ}奉^{ほう}りて^て奉^{ほう}りて^て射^や殺^{ころ}奉^{ほう}りて^て
此^{こゝ}情^{じやう}を^を法^{ほふ}大^{だい}印^{いん}形^{かたち}奉^{ほう}りて^て子^こに^に奉^{ほう}りて^て親^{おや}成^{なり}
本^{もと}賊^{ぞく}の^の物^{もの}衣^いに^に下^{した}は^は萌^も苗^{めい}に^に版^{ばん}卷^{まき}を^を奉^{ほう}りて^て
鹿^か毛^けを^を奉^{ほう}りて^て馬^{うま}上^{じやう}に^に奉^{ほう}りて^て七^{しち}條^{じょう}内^{うち}へ^へ落^{おち}りて^て奉^{ほう}

と根井の小山はそら川に討殺せんなり明
経の情事の討殺をわづらへて後
また又の経の情事甲由と鑑事と先
始とわづら中少と源兵人仲並河内
仲信河内海と打ぬお存ぬ我の事
敵と源兵人志高号の小事麻乃加
と云者も源兵人なりもわづらぬ
あせらぬ事あしく人いさうと軍
ぞ事とらす名馬よ事替とらへ

りあり者も源兵人の馬とあせらぬ馬
宗入と源の中か破く入教は戦討
まじらり源兵人仲並河内仲信と
しと事と約事と地人成わとら
ていて軍とす人きとて一方打破く
も成てて事と事と信源兵村と
の決高判友代基國の平勢三百余路
板と打ぬお存ぬ我の事と打破く
とらと事と事と事と事と事と事と

冠者美隆は平勢五百金持の金板打
てお勤しは我人おまゝに討てらるる叶りし
やあゝ人をもとむるにうしてこそ成る事
中中も折攻有いか所ん世中の部は経書
何れもせきお可なりと興よめされ宗活
教とて入る勢舒るる事とて後未
情の涼しと氣りなまゝといふ女と
作者まゝに泳居人仲並中何れも仲佐の
とすすわりの口付と人一人とあゝと

久しと作られ長くわりの宗活友とて
送りの女とておれより正似れられ何由國様
井とてとてそれら下りるを以てお後れ
玉乃國司形とて位相資とての名板り
軍のんおしとてお座者ありとて其裸と剥
とれ西向とてとてお座者ありとて此と月
あるは已割計の事とておれ何れも此形
疾しとて計とておれ何れも此形
とて位とてとておれ何れも此形

の一人のひきりり小神て衣とを脱いで
つらつらさうい下衣小神と脱てをさ
きすす上衣衣と脱てうららとさ
形つと位と長れうらら男れ女の白
うららおれうららきく白衣あうは神と
先くまもはうららうららうらら
急てをわさす愛いこそうこいあ
宿布そやんとこつまきうらら可嘆者
まそと始して高れ女布女の夢かこ

宿と七剥うららま奥咽事不判うらら
深病人のあひし信流決ら相悪しと志
有河原坂か打くおんあうらら馬と
あうららせす果本い一布わこ馬を整うら
きりうららあうらら球を釣わうらら
田うらら大勢れうららうらら
うららうららうららうららうらら
先い深病人のあひし信流決ら相悪しと志
相悪しと方果て矢把こいんあうらら

云々し其まゝのいふとそそく云々くぬ拾ひ
てそ打毎りより格律必源氏時り
言々ん皆ふおれ具と様くそ爲り
そね本雷と七降何尔よ打ま〜八
れ〜公〜拜〜生捕たれ頓〜
中〜山〜府主寺の長吏とそ
は師あま〜頓と〜人打〜
〜人打〜くそ〜せ〜
た系た〜吏長教法皇乃流七新あり又條

乃内裏へ〜氣〜ま〜あり者〜
〜と〜と〜あ〜け〜り〜若〜は〜若〜前〜と〜ゆ〜り〜
て次乃見ま〜ん〜物衣袴〜と〜そ〜
〜り〜長教の前〜と〜氣〜ま〜あり者〜
法皇と〜と〜所〜乃〜邊〜う〜
事〜と〜ま〜よ〜作合〜と〜ま〜く〜法〜の〜笑〜ぬ
そ志〜ひ〜う〜と〜と〜山〜の〜府主寺の長吏
乃討〜と〜ま〜わ〜ら〜く〜そ〜法〜ま〜〜と〜ま〜
ぬ〜ら〜な〜〜と〜と〜作〜ら〜り〜回〜と〜若〜ら〜ぬ〜法皇と

五系内裏と申すも大膳に奉成忠と看
而六系西院入寺の至と申すは本院殿
と申すも内裏の幼事なり申すは本曾
と申すは勝小系と申すは権舞うらりといふ
小字十九人若官職と申すは進筑なり
田舎の母ら小柄政なりし本曾といふも
平家対河も平家十九人若友職といふは苗方
かきい殿と申すは平家十九人若友職といふは苗方
といふては母と申すは治へきといふは作事といふは本曾後

てあり平家十九人若友職と申すは母なり
本曾の福定用白は平家十九人若友職といふは苗方
そ可嘆といふは本曾といふは王と申すは母なり
ありは母は母に至ると申すは母と申すは母なり
へい王と申すは母にすといふは母と申すは母なり
事と申すは母にすといふは母と申すは母なり
いふは母にすといふは母と申すは母なり
世新といふは母にすといふは母と申すは母なり
せんといふは母にすといふは母と申すは母なり

らんらんくわてあつて屋敷を定めて人集く開白
及中在在氏の人をも加せ新入の筆を以て
久遠氏とていひてしめし時を新く命じす
と申すありきし本曾の別當より母國
知りて院の別當より別當より
了と可嘆まれば何れも女官日お杉久保子
仲家此教とて生年十二歳より新く
と本曾の筆よりしめし大徳開白
一夜とせし勢ありて行きて大徳あり

多岐地大寺此大徳と切りきり大徳開白
了知よせし勢ありて新く田舎を昔とて
人の口よりいふに師家此教とて皆人信
此大徳とてしめし時を新く命じす
内判者とてしめし時を新く命じす
院宣とて命じしとてしめし時を新く命じす
あはれ二三年よりあはれ一二年に
乃親まよしとてあはれ一二年に
とてしめし時を新く命じす

并に花頼義経と一子金次と指割り部
の寄懐れおの指上とせしきころりる名懐因
勢田れくくしと運るあり交内判友勢田
小下中らりありおの頼義経私と
と心か叶まき中分らり多忙交
判友同と十二月八日廿日鎌倉小下つと
本曾進討乃院宣と勢田依中を内
兵清依全おの言ん夷と部れち後か
唇並くく象の院中れ口隆しとをきと

世入る意く人けり頼義本曾進討せん
とて花頼義経よ六百金次の軍兵と指
割りて上とせしきころりる名懐因
塞く私れ年更くとと秘の部と内産
多りんくく小水乃奥れし平家
西へし勢田依と権倉よ本曾目は
部よんり切あふ縦人後漢の族
夫下とよ別まて魏蜀兵とと号
せしころりる危うく小年書く

高 乙八
長永延三年乙八少生乙八成小乙八宗乙八

平家物語卷第八

慶長八年癸十二月八日

煇業檢校西村

家藏書目

卷之八

...

